

開成町福祉コミュニティプラン（案）に対するご意見と回答

No	ご意見	回答
1	<p>P36-37 施策の体系について</p> <p>基本理念には同意します。しかし、取組み⇒施策の展開⇒基本目標と追ってみると、取組みが弱く、現在のプランでは目標に到達できないと思われる点があります。</p> <p>①基本目標1に対応した課題への取組みについて</p> <p>「全ての住民へ提供」しても全ての住民が参加するわけでは無いので、ディフェンシブです。興味ある人・時間に都合がつく人だけが参加するのでは「みんなで」育もう！という基本理念まで到達できないと思います。オフェンシブな施策を加えてください。</p> <p>②基本目標3に対応する課題への取組みについて</p> <p>各養成講座、ボランティア体験に参加した方が、実際にその体験をいつ、どこで、どう生かすのか？が抜けています。</p>	<p>①については、「施策2福祉の情報提供・啓発活動を推進します」のめざす方向のとおり、関心の薄い住民や転入したての若い世代などへのアプローチ方法の検討を行い、本計画期間内に、個別通知による情報提供等の具体的な取り組みを行っていきます。</p> <p>②については、「施策5福祉活動の担い手を育成します」及び「施策6ボランティア活動を推進します」の「めざす方向」に、それぞれ「また、受講修了者へのフォローアップ体制の強化として、施策6を展開していきます。」「また、施策5で育成した人材が、継続的に活動できる場を創出していきます。具体的な相談・希望に応じながらニーズ（福祉課題・生活課題）とのマッチングとコーディネートを図っていきます。」と文言を追加しました。</p>
2	<p>開成町で障がいのある幼児を育てるのは容易でありませんでした。</p> <p>障がいがあると、町内には進む先がありません。小田原のように私立園で受け入れ先があるわけでも、山北のように公立園で受け入れ先があるわけでもありません。地域</p>	<p>障がいをお持ちの子どもに関係のある計画は、福祉コミュニティプランだけではなく、障がい福祉計画や障がい者計画、子ども・子育て支援事業計画など多岐にわたります。</p> <p>しかし、縦割りの対応になることを防止するため、本計画の策定機関である開成町地域福祉推進協議会には、教</p>

の子ども達とは関わりのないまま、我が子は幼児期を終えました。一方で、就学となると「地域の小学校へ」と勧められます。このまま別の道でいいと、気持ちを切り替えていたのに地域の支援級へ。そう簡単に割り切れるものではありません。

福祉とは、本来「ふくし教室」や「福祉大会」で学ぶ特別なものではないはずです。(啓発は大切ですので、実施に異議を唱えているわけではありません。)福祉が幸せであるのであれば、日々の生活の中で生まれ、広がっていくものの筈です。(もちろんそこにはリードする人材が必要になりますが)

例えば我が子と接したことで誰かに産まれた福祉の心は、障がい福祉だけに留まるでしょうか。そうではないはずです。高齢者福祉にも、地域の活動にもつながっていくはずです。基本は別物ですが、認知症と自閉症はその対応にお互いの工夫を応用しあえることもあるそうです。また、障がい児が過ごしやすい環境は、すべての子どもが過ごしやすい環境です。一つひとつをばらばらに考えることは効率的ではありますが、つながったものとして捉える視点を加えることにより、限られた予算を有効に使う手立てに気付くこと事もあると思います。

幼児期に障がいがあった子どもは、福祉と教育の狭間の縦割り行政の間で振り回されます。福祉と教育の管轄を

育委員1名も協議会委員となり、本計画の策定にご尽力いただいています。

また、平成28年4月から障害者差別解消推進法が施行され、公立校(園)では合理的配慮の提供が義務付けられ、私立校(園)でも努力義務となります。また、新たに子育て支援センターも開設されます。

今後、地域での活動の場や受け皿を確保するとともに、合理的配慮の提供に関する普及啓発を行っていきます。

加えて、現在、国(文部科学省の初等中等教育分科会)がインクルーシブ教育システムの構築の検討を行っています。平成27年4月には、新たな子ども子育て支援制度が始まっているなど、今後、障がいをお持ちの子どもを取り巻く環境は大きく変わっていくと思われます。

ご指摘のとおり、日々の生活の中でも福祉に関する学びの機会は数多くあり、活用していく必要があると思います。しかし、そのような機会を全ての住民が体験でき、また生かし、学び、考えていけるわけではありません。現状では、ふくし教室等の機会を活用し、また仕掛けていくことにより、学び、考える機会を提供していく必要があります。

地域福祉は、対象を絞ることなく、地域の支え合いの精神から発展したものであるため、今後もさまざまな機会をとらえ、普及啓発を行っていくとともに、福祉と教育の連

越え、是非改善していただきたい本町の課題だと思えます。新しく生まれてくる命が悲しい思いをしないために、書かせていただきました。是非、ご一考いただいた上で提言をまとめていただきたいです。

携体制を更に拡充していきます。

「みんなで育もう！誰もが安心してイキイキと暮らせる福祉のまち かいせい」という本計画の基本理念をご理解のうえ、体験に基づく貴重な意見をいただき本当にありがとうございました。いただいた意見により、地域福祉推進協議会でも議論を深めることができました。今後は更に関係機関との議論を深め、ご指摘の点に十分留意し、福祉行政を推進していきます。